

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		科目コード	単位数	開講期
ワークライフマネジメント特論		Z 207	1 単位	1 学期
Work-Life Management				
科目分野		課程領域		
組織人事マネジメント		ビジネスマネジメント専門科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
小室 淑恵 二瓶 美紀子	-	メールアポイントにて随時 (原則平日9:30~18:00)		

関連している科目(履修推奨科目)

企業戦略要論	組織人事マネジメント要論、特論	リーダーシップ要論、特論
フォロワーシップ・リーダーシップ特論		

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

コロナ禍において、働き方が多様化し自律的な働き方が求められている。男性が育児休業を取得することに賛成する人が71%と、家族をより重視する人が増えた。

これからの企業経営において、優秀な人材を惹きつけ、多様な人材が意欲高く働くことで生産性高く成果をあげ、イノベーションを起こしていくには、今まで一見「福利厚生」だと思われていたワーク・ライフバランスが、重要な経営戦略となる。

育児・介護といった働き方の多様性だけでなく、LGBTQといったダイバーシティも含めて、多様性を企業の成長力につなげていくためには、どのようなマネジメント、働き方が有効なのかを学ぶのが、この科目の目的である。

- なぜ日本社会において働き方改革・女性活躍・男性育休が必要なのか。人口構造からマクロに学ぶ。働き方改革に成功した企業で起きたイノベーションの事例を学ぶ。
- 長時間労働の職場を具体的に变革していく手順やツールを学ぶ。
- 最終回は受講生による「発表会」を予定する。ここでの発表内容を最終レポートに代替する。

到達(修得)目標

- 自身の生活や職場において、ワーク・ライフマネジメントを実践できる力の修得
- 従来の働き方に愛着を持ち、変化を望まない経営層・上司・同僚に、新しい働き方の必要性和効用を伝え、実践を促す力の修得。

受講対象者

組織・個人のワーク・ライフマネジメントに課題を感じ、改革への意識のある方が望ましい。
 イノベーション・マネジメント専攻の全受講生・科目履修生

履修上の注意事項やアドバイス

- ★課題には時間をかけすぎずに、効率よく準備をしていくことが求められる。
- ★履修前の必読本があるので初回までに読んでおくこと。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力	○	X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案		Z5: 変革推進力	○	X5: 変革	
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力	○	X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

ブラクティカム

イベント / ケース		教育技法	マテリアル / ツール
1	独自コンテンツの講義	講義+質疑	PPT
2	グループワークによる課題発見・解決策の提案	グループワーク	PPT
3	受講生によるプレゼンテーション	発表+質疑+講評	プレゼンテーション・アンケート

評価の方法		
(総合評価項目と割合)		評価の要点
出席・受講態度	10%	講義中の発言貢献:授業中の積極的な議論参加を評価する。 最終回のプレゼンテーションも含め総合的に評価する。
講義中の発言貢献	45%	
最終発表会での内容	45%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	「働き方改革」～生産性とモチベーションが上がる事例20社～ 小室淑恵 (毎日新聞出版)	第1回までに読んでおくこと
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	『改訂版 小室淑恵の即効プレゼン術』 小室淑恵 (学研)	第4回にプレゼンテーションを実施するため
参考URL		
朝メール: https://work-life-b.co.jp/service/tools.html		

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	なぜ日本社会において働き方改革・女性活躍・男性育休が必要なのか。 人口構造からマクロに学ぶ。	事前課題書籍「働き方改革」を熟読していることを前提に講義を行う	小室	90分
	働き方改革に成功した企業で起きたイノベーションの事例を学ぶ。			90分
イベント	職場や組織の課題を分析する。自分自身の働き方を、ツールを用いて分析する。			
3.4	ワーク・ライフバランスを個人および組織で推進する際の課題を整理し、 解決策の方向性を見つけ出す	朝メールを用いて現状分析を行い、課題・原因・解決策をまとめる	二瓶	90分
	朝メールを分析する 課題の分析手法を学ぶ(要因分析)			90分
イベント	企業、個人のワーク・ライフバランスについて分析するとともに、実現できない要因を探る			
5.6	ワーク・ライフバランスの推進するための提案をグループ内でプレゼンテーションし、議論する 関係の質、心理的安全性について学ぶ	プレゼンテーション資料のブラッシュアップ	二瓶	90分
	ワーク・ライフバランスを実践するための取組施策について考える 自分が実践する取組内容を具体的に考える			90分
イベント	ディスカッションを受けてワーク・ライフバランス実現のポイントを整理			
7.8	「自組織や職場への働き方課題分析と解決策 提案と討議」 受講生全員によるプレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成・発表準備	小室・二瓶	90分
	受講生全員による自社ワーク・ライフバランス施策発表と討議			90分
イベント	作成したプレゼンテーション資料の発表			

- ※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。
- ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
- ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。